

2010年夏学期レポート

夏休み

6月前半はカリフォルニアの上にあるオレゴン州へ足を伸ばしたり、友人とBBQをしたりして余暇を楽しんだ。3期生岡田さんの卒業式にも出席し、アメリカの卒業式を味わった。アメリカの卒業式に出席するのは初めてなのだが、まず驚いたのが会場のにぎやかさ。卒業生の名前が呼ばれるたびに、家族や友人の大きな歓声が飛び交うのだ。持参した打楽器を鳴らす人や、会場が揺れ動きそうなくらい足をドンドンと鳴らす人もいた。卒業生も観客に手を振ったりしたりして、まるでお祭りのようであった。日本のような厳粛な雰囲気はなく、とてもにぎやかで印象的であった。岡田さんのガウン姿を見て、私も4年後ガウンを着ることを楽しみに、ギャロデットでしっかり勉学に励みたいと思った。

夏学期

6月21日から6週間夏学期であった。6週間で一学期分(4ヶ月)をやらなければならないというハードなスケジュールだったが、集中的に学ぶことができた。履修した科目は英文学入門(ENGL-101B)である。英語圏の詩や小説、演劇の読解力・分析力を身につけるのが目的である。英文学を学ぶ上で一番苦労したのは詩的表現の読解である。英語やアメリカ文化の知識不足もあり、ひとつの単語や文に複数の意味が隠されているものや、遠まわしな表現を理解するのに四苦八苦したが、クラスメイトそれぞれの見解を聞き、そんな見方もあるんだ、と新しい発見もあり楽しく学ぶことができた。それぞれの詩や短編小説が書かれた時代の歴史的・文化的背景や、著者がその時代をどう生きたか、何を伝えたかったのかを分析し、学び、改めて文学は奥が深いと感じたクラスであった。

始まったころは「まだ6週間もある。」と思っていたクラスもあっという間に6週間が過ぎ、夏学期が終了した。文学についてより深く知ることができ、文学の良さを改めて感じることもできた。

ギャロデット大学進学

6月下旬にギャロデット大学より入学許可の手紙が届いた。9月から晴れてギャロデット生となる。初めの1年程は一般教養を学び、その後社会福祉学を専攻する予定である。もうすぐソーシャルワークについて学べるという嬉しさの反面、ついていけるのかどうか不安な気持ちもあるが、前向きにがんばっていけたらと思う。合格通知は届いたものの、入学前の手続きや準備などが残っているのでまだ安心できないが、気を抜かずに準備を進めていきたい。

おわりに

フリーモントへ来てから早くも1年がたった。一週間前の出来事のような。フリーモントでは先生にも友人にも恵まれ、様々なことを学ぶことができた。やっと住み慣れてきたフリーモントを去るのは少し寂しいが、ギャロデットでの新しい生活が楽しみでならない。これからスタートなので初心を忘れずにギャロデットでも日々精進していきたい。